

まとめと準備の“師走”

いよいよ、来週から各地区で「冬期講習」が始まります。

中3は高校入試での志望校合格へ、中1・中2は年明けのテストへ向け、小学生は学習してきたことの総まとめと、次年度への準備に…文理の冬期講習では生徒・教師が一丸となって勉強していきます。一緒にがんばっていきましょうね！

さて、12月「師走」(しわす)、「年末には"師"が忙しく走り回る様子」からそう呼ばれるとの説がありますが、確かに私たちのような教師も年末は受験対策、進路指導、冬期講習と大忙しです。

しかし、忙しいからと言って、教師も生徒もそれに流されてはいけませんね。「師走は1年の総決算と同時に、新年への心の準備期間」でもあるのです。忙しい中でも時間を取り、次のようなことについて立ち止まって考えてみましょう。

- 2018年、自分は何を一生懸命がんばれたのか。
- 自分自身、1年間で成長した部分はどこだろうか。
- 大切な家族や友達に、何かできただろうか。
- 勉強や仕事でどんな成果を出せたのだろうか。
- 1年ほど前に立てた目標や誓いを達成できたのか。

他にも色々あるかもしれませんが、以上5つについてじっくりと振り返ることで、反省と同時に「新たな目標や決意を固めることができる」のではないのでしょうか。1年経って「これを達成したぞ！これをやり抜いたぞ！」という事実が自信と実力に繋がってくるのは間違いありません。文理学院の塾生たちには、是非とも「立てた目標の達成へ向け、やり抜く姿勢を貫いてほしい」と思います。英語ではGRITという言葉があります。「やり抜く力」と訳されますが、その力が強い人間ほど、様々な局面で成功しやすいという研究結果も出ています。「目標を立て、それを達成するまでやり抜く」ことを若いうちに覚えてもらいたいと思います。

ちなみに、「師走」以外にも12月を指す言葉があります。

「春待月」(はるまちづき)、梅初月(うめはつづき)、歳極月(としはずき)といった、漢字を見ればその意味を想像できる名前もありますし、ズバリ「苦寒」(くかん)といい、見るだけで凍えそうな名前もあります。本当に日本語って面白いですし、深いですし、季節感が滲み出ている言葉が多いですね。

「成績や得点を上げるには、どうすればよいか？」

このような質問には、その対象になる子どもによって回答は多岐に渡ります。それでも、その土台となる共通項が存在すると思います。文理学院でも地区によって、保護者会や教室内掲示などで生徒・保護者の皆様に伝えているのは「SLANT」という言葉です。その徹底こそが、成績・得点を上げる基礎であると考えています。「SLANT」とは次の英語の頭文字を取った言葉です。

- 正しい姿勢で座る (Sit up)
- よく聞く (Listen)
- 質問をする (Ask questions)
- うなずく (Nod)
- 話し手に目を向ける (Track the speaker with your eyes)

どうでしょうか。保護者の皆様は学校の授業参観へ行ってみて感じることもあるのではないのでしょうか。以上のことが不徹底の教室って少なくないですよ。それが「学級崩壊」などに繋がっていくわけですが、文理学院の場合、大半の校舎・クラスで、これら「SLANT」が概ね徹底されていると感じます。実際、塾生の成績が上がっているクラスや生徒数が増えている教室では特にこれらの徹底度は高いように思われます。

「SLANT」の徹底はご家庭でも可能です。いや、むしろ幼少から各家庭で徹底されるべきものであると感じます。徹底されているご家庭のお子様は総じて成績が良かったり、生徒会や部活などの課外活動でも活躍されていたりするケースが多いように感じますが、いかがでしょうか。「SLANT」の徹底…ひとつ参考にさせていただけると幸いです。

「校舎ブログ」配信中！是非ご覧くださいね！



QRコードを読み取って
校舎ブログを覗いてみてね！

ホームページもリニューアルされています！

1月入塾 受付中！

医療でも病気になってから治療する時代は終わり、「予防医療」、つまり健康なうちから病気にかからないようにすることが重要視されています。勉強も全く同じです。「勉強がわからなくなってから塾を探す」では手遅れになる場合もあります。早期通塾は受験に先手を打つ特効薬。文理学院では冬期講習受講後の1月入塾を強くお勧めします！

特典：①入学金「無料」②特別授業無料招待 など
詳細は各校舎にお問い合わせください。

深い信愛の情を持ち厳しく接することにより、協調性と礼節を培う。

やさしさと弱者を思いやる心を育む教育。

イマドキの小・中学生事情

※各学年男女 100 名ずつと保護者を対象にアンケート

学研教育総合研究所で全国の子ども、保護者を対象にアンケートを実施した中から興味深いものを私の体験と併せて載せてみます。

【1ヶ月の読書量】

小学生 4.6 冊 中学生 2.0 冊
月に 1 冊も読まない生徒が全体の 31.7%、男子では 40.7%にも上るそうです。

【自由に使える通信機器】(中学生のみ)

パソコン (家族共有) 50.2%
スマートフォン (子ども専用) 40.3%
ゲーム機 (子ども専用) 34.5%

私たちの若い頃に比べると生徒たちの読書量はかなり落ちていと言えます。部活動などでの忙しさや、映像などの発達も要因だと思いますが、手軽に他者とコミュニケーションを取ることができるツールが身の回りにあることも「読書量を減らす 1 つの原因」であるように感じます。

いわゆる「活字離れ」は少し引いて考えてみると、大変恐ろしい感じがします。現場の教師たちからは「文章が読めない」、「意味が理解できない」、「途中で読むのを諦めてしまう」といった生徒が昔に比べて増えているように感じるとの声も聞かれます。

文理学院では、そのような「活字離れ」をストップするための取り組みを「素読」(そどく)を通じて行っている校舎もあります。また、来年度から新たに「素読」を開始する校舎もあります。

「文字を追って文章を読み、理解し、必要な情報を得る」といったことはテストや学業だけではなく、普段の生活でもとても大切なことです。

技術革新で便利な世の中になっている反面、時代に流されることで、本来、人間として持ち合わせた能力が退化していつてしまうような気さえする昨今。文理学院としては今後も「時代が本当に求める教育、必要な教育」を実践していきます。

【携帯電話を巡る回顧録】

今から 13 年ほど前でしょうか。私が責任者を担当していた校舎に、某大手予備校から 1 人の生徒が移ってきました。当時、80 番/200 名中という成績の彼女 (M さん) は「成績を上げたい」という強い希望と志望校合格への夢を抱いて文理に転塾をしてきたわけです。

転塾後、初めてのテストでは 50 番になったのですが、私はその結果に非常に納得がいかず、M さんと保護者を呼んで面談をしました。すると「携帯メールのやり取りで、家庭学習に集中できていない」ことが判明しました。

机に 2 時間向かっていたとしても、メールが来れば返信するといった感じで、正味 30 分程度しかやっていたのでしょう。

面談の中で色々な話をしました。もっと成績が上がったはず、転塾してきた時の気持ちはどこへ行った? などなど。同時に M さんとお母様に伝えたのは「携帯電話を解約するか、他の塾に移るかどちらかにしてください」ということでした。結果は即答で「携帯電話を翌日に解約する」ということでした。面談で私が話をしたことが、M さんの心にしっかりと届いたのでしょう。

その後のテストでは学年 10 番台をキープし、見事志望校に合格。高校でも一桁の順位を取るなど、学業でも大変がんばっていたと記憶しています。

よく塾生たちに「そんな小さいもの (携帯電話) に自分の人生を左右されていて、おかしいと思わんのか! ?」と一喝する時があります。自分自身の人生を真剣に考えた時に、「時間を大切に、今、やるべきことに全力で取り組む姿勢」こそが、日々の生活の中で最も大切なことであるのです。

よい意味で「勉強中毒」(笑)になる方法 ※参考「青年期の臨床心理学」など

ゲームに嵌る (はまる) 人がいます。

その理由は脳内物質のドーパミンが分泌されることで快感を得るからだそうです。簡単に表すと「ドーパミンが分泌される → 捗る、嵌る」ということなのでしょうね。ドーパミンは何かを達成した時にも分泌されるとのこと。例えば、宿題をやり切った時、本を読み切った時、決められた語数の単語を覚え切った時などに「達成感」を得ますよね。それもドーパミンの効果だそうです。

自宅学習にこの原理を応用すると...

①低いハードルをいくつも作り達成感を得やすくする。(例) 漢字や英単語を 10 個だけ確実に覚える、数学を 5 問だけできるようにして休憩を取る、など。

②30 分集中して勉強したら休憩を数分入れる、を繰り返す。

このように「やるべきことを小分けにする」ことで、「小さな達成感」を何度も感じることで、そのことがドーパミンの分泌にも

一役買い、更に勉強が捗る、勉強に嵌る、つまり「勉強中毒」(笑)になるということに繋がるのではないのでしょうか?

ここで一番言いたいことは「**自分に合った勝ちパターンを見つけること**」です。勉強でも仕事でも同じですが、「勝ちパターン」、つまり「**成功するために自分に合ったリズムや習慣を見つけ、実践していくこと**」が大切です。そのためには、自分自身とじっくり向き合う時間を作り、どんなパターンが自分の勉強法として合っているのかを考えてみていいのではないのでしょうか。

【編集後記】

この 2 年間、第 86 号からこの第 97 号までを編集長として作成してきて今回で退任となります。多くの方々のお力添えで、手前味噌ではありますが「文理らしい」ものができたと思います。「文理だより」はカラーでもなく、写真の掲載も少ない大変地味な内部広報紙ですが、ここで伝えてきたことは主に 2 つでした。

その 1 つは「文理の教育理念」であり、もう 1 つは「私の 27 年の塾講師としての信念」でありました。文理学院の塾生が読み、少しでもお役に立てたのであれば幸いです。最後に伝えたいこと...それは、「目の前で起こることはよいも悪いも自分自身が蒔いた種である」、そして「どんなにつらいことや、嫌なことが起こっても、受け入れ認める勇気と決心を持って」ということです。【勤】

困難に屈せず、果敢に挑戦する勇氣。